

北陸石仏の会々報

第 3 号

平成5年8月26日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

〒939-13 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三―三二一―二七七二
振替 金 沢 四 一 一 一 九 七 四

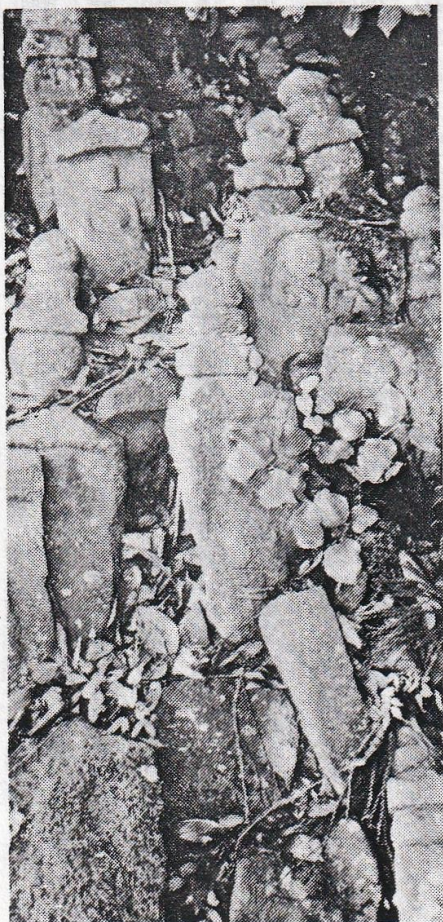
三界萬霊の風土

佐伯安一

明通寺の駐車場でバスから降りたとき、道ばたの崖下に異様な風景を見た。

折り重なるように積まれた石造物の山。かわいい一石五輪塔(地輪が長い)。オベリスク状の光背に范洋と彫まれた定印を組む中世の如来像(その基部は尖っている)。一石双体のものもある。それらが落葉のふとんに埋もれて、不思議に落着いた雰囲気をかもし出している。私たちなら一基あっても驚喜するようなのが無造作に積み重ねられているのである。悉皆調査を試みたいような衝動に駆られるが、これを崩すとこの不思議な世界はこわれてしまふであらう。

富山県、ことに砺波地方では一体一体管理者がはっきりしていて、お堂に入れたり、冬はこもをかぶせたりしている。そんな「ものさし」から見ると、この風景は実に異様に映るのである。地元ではどのように認識されているのであろうか。聞いてみた



かったが囲りには人影もない。だいたい香華を手向けたあともない。これらの石仏は造立当時はどんな風景だったのであろうか、と思いつめぐらしてみたりする。

帰りに若狭国分寺跡の脇でも、びっしりと積まれた墓標と石仏の山を見た。今は「俱会一処」形式になったが、昔は一人ごとに墓標を建てたといい、その形はあちこちの墓所でも見た。

当日の案内者北村さんの説明によると、若狭は寺院の密度が濃いう。確かにお寺は多い。しかし、お寺ばかりでなく、無縁仏の密度も濃い。三界萬霊の充満している風土をそこに見た。

(砺波郷土資料館長)

北陸石仏の会 第三回例会記録

事務局よりの指名で、京田先生と連絡をとり、若狭地区在住の北野が企画と折衝を受けもち、第三回例会（小浜市内）を七月十八日（日）参加者、藤村会長を始め二十三名で決行しました。

心配した夜来の雨も早朝には止み、遠来の客を迎えての撮影日和、開散時までもちこたえられたのは、御仏のお慈悲があり、参加された会員諸氏の御精進の賜と感謝致しております。唯、予約のマイクロバスが会社の都合で大型車になり、街中を走る事が出来ず大変な時間のロスをしてかした事で、誠に申し訳無く思っております。

第一番の常高寺墓地へは小浜公園入口で下車、徒歩にて三丁町（旧色街）中をぬけJR小浜線を横切り、再建中の常高寺内を通り抜け急坂をよじ、国道二十七号を横切り墓地に到着、京田先生お手配の北村先生の御説明あり、京極高次夫人と七人の待女の墓を見学、後近辺に化粧地藏を見バス迄帰り、円照寺に向かう。当寺は臨済宗南禅寺派の禅寺、先ず重文の大日如来と脇の不動明王の立像等を見、次いで江戸初期の姿を止める築山に池を配し飛石の無い庭園を見学する。此処で残念な事は、南北朝時代と判断される六角形石幢の拝見が叶わなかった事でありました。

食事時も過ぎていたのを次の明通寺まで辛抱を願い、当寺駐車場にて車中食ですませて頂き、苔むした石段を登りつめると国宝の三重塔と本堂（薬師堂）の美しい屋根の反りを見せてくれる。

三重塔前石段中頃横に南北朝期といわれる宝篋印塔一基と宝篋印塔残欠の台石が見られる。本堂に入ると内陣に重文の薬師如来、深沙大将、降三世明王像等が立ち並ぶ。見学を終えた後、三重塔前にて記念写真を撮り、最後の羽賀寺に向かう。

羽賀寺は行基菩薩を開祖とするといわれ、重文の本堂内に、元正女帝の御姿をうつすと云われる十一面観音が前立、後ろに薬師如来坐像が祀られ、外に千手観音、毘沙門天も見逃す事の出来ないものである。石造物としては、正徳四押の笠塔婆、幢身だけの石幢は必見のものと思われる。石幢は室町初期と考えられている。以上で見学会は終了、予定より一時間の余裕が出来たが、外に一カ所の見学には帯に短し襷に長しで、残念ながら亦の機会と云う事で小浜駅前二時半着解散しました。（北野）



第三回例会出席者

大野猪策	田村京子
大久保まさ子	永尾すて
井川清一	大浦美子
藤村善雄	柳沢栄司
平井一雄	佐伯安一
千秋謙治	千秋幸子
尾田武雄	京田千鳥
晒谷和子	太田幸子
北村市朗	南 金三
北野正明	滝本靖士
島倉 巖	島倉千春
松金宏喜	

（順不同）

会 員 名 簿

宮崎 修 大阪府
 川村 信治 新潟県
 阿部 茂雄 新潟県
 渡辺三四一 新潟県
 石田 哲弥 新潟県
 星野 紀子 新潟県
 梅田 始 新潟県
 高橋 保彦 新潟県
 吉村 博 新潟県
 吉川 繁 新潟県
 藤村 善雄 石川県
 木綿たき子 石川県
 久世嘉太郎 石川県
 芝田 悟 石川県
 井川 靖一 石川県
 館 礼子 石川県
 高尾寿美子 石川県
 千徳 英一 石川県
 三井 紀生 石川県
 彦坂 貞次 石川県
 加藤 英子 石川県
 長谷川三重子 石川県
 竹田志津子 石川県
 福住みつえ 石川県
 善 福 寺 石川県
 吉田 和子 石川県
 藤島 秀隆 石川県
 滝本 靖士 石川県
 五十嵐一雄 石川県

松金 宏喜 石川県
 山崎やすえ 石川県
 尾田 武雄 富山県
 佐伯 安一 富山県
 岡田 静子 富山県
 林 貞子 富山県
 細川 裕子 富山県
 南 金三 富山県
 田中 清一 富山県
 埜村 輝子 富山県
 竹守 澄江 富山県
 野上 英子 富山県
 大浦 美子 富山県
 牧田 和子 富山県
 樽谷 雅好 富山県
 太田 幸子 富山県
 富田 幸 富山県
 晒谷 和子 富山県
 藤田 正時 富山県
 中川 達 富山県
 吉澤田鶴子 富山県
 京田 良志 富山県
 柳沢 栄司 富山県
 大野 猪策 富山県
 亀沢 和子 富山県
 小竹 一夫 富山県
 酒井 初江 富山県
 古沢田鶴子 富山県
 二上 玲子 富山県

京田 千鳥 富山県
 前田 英雄 富山県
 八木 均 富山県
 清原 為芳 富山県
 平瀬 秋男 富山県
 平井 一雄 富山県
 国元惣一郎 富山県
 土田 一夫 富山県
 田村 京子 富山県
 斉藤 善夫 富山県
 千秋 謙治 富山県
 野原富士子 富山県
 藤田 豊久 富山県
 佐々木春子 富山県
 米田千恵子 富山県
 西井 龍儀 富山県
 島倉 千春 富山県
 佐藤 武彦 富山県
 土井 了宗 富山県
 酒井 和 富山県
 牧野たか子 富山県
 山田 政夫 富山県
 岡田 順一 富山県
 服部ふじえ 富山県
 北野 正明 富山県
 山本 昭治 富山県
 大久保まさ子 富山県
 辻角 紀子 富山県
 北村 市郎 富山県

(順不同)

北陸石仏の会第四回例会案内

第四回は新潟石仏の会との共催となり、「石仏の里」として知られています。栃尾市が会場です。石仏の数の多さ、また日本ではただ一体、あるいは数体といった異形、珍しい銘文など多種多様な石仏が見られ、かつての庶民信仰と石造文化を知らしめていきます。

そのようなことから、栃尾の地を一度は訪れてみたいと思っ
ている方も多いことと思います。そこでこの度は、この石仏の地、
栃尾を散策する計画を立てました。この機会に是非ともご参加い
ただき、初秋の一日を思い出深い日にして頂きたいと願ひ、ここ
にご案内申し上げます。

月 日 平成五年九月二十六日(日) 雨天決行
時間 集合 午前一〇時 栃尾市文化センター

(栃尾市中央公園)前

解散 午後三時三〇分予定

(新幹線や電車でおいでの方には長岡駅まで送迎用の車
がでます)

見学地 一之貝(天王寺庚申塔ほか) || 軽井沢(見送り地蔵)

|| 秋葉公園(西国三十三番・四国八十八箇所供養塔
ほか) || 下来伝(道祖神群・線刻大黒天ほか) ||
森上(猫又権現・木曜星神・造化神社・子安地蔵ほ
か) || 半蔵金(道祖神ほか)

このほか、秋葉公園では上杉謙信関係歴史散歩・石碑

散策などができます。

参加費 一、〇〇〇円

参加希望者は次のことをハガキにご記入のうえ、左記に申し込
んでください。追って詳しい案内をお送りします。

- 一、参加者住所・氏名
- 二、交通手段(電車、自家用車)
- 三、弁当(税込八〇〇円)の希望の有無

申し込み

〒940-102 新潟県栃尾市平二一五-七 石田方

新潟県石仏の会

電話 〇二五八(五三)三四二〇

締め切り 九月六日(月曜日)

までにお願ひします。

参考 往きのJRに左記のような
ものがあります。

6:15	5:52	2:14	敦賀着
6:43	6:16	2:40	武生
6:57	6:29	3:04	福井
8:15	7:35	4:04	金沢
8:38		4:34	高岡
9:02	8:20	4:50	富山
北越1号	かがやき1号	6:23	直江津
		6:51	柏崎
		7:20	長岡着

会旗できる

会報の題字と同様、会員佐々木春子さんの揮毫です。第三回例
会で樹立し披露いたしました。

